

第9回高知県消防広域化推進検討委員会（審議概要）

日 時：平成19年12月4日（火）14:30～17:00

場 所：高知共済会館 「金鷄」

1. 開会

2. 議事

①各消防長からの意見聴取

【室戸市（佃消防長）】

- ・消防サービスの現行水準の維持が最重要であり、今の現場要員の確保は必要である。
- ・今まで国や県が示してきた広域化のメリット・デメリットにより広域化するかどうかでなく、人口減少に伴う諸問題の解決策としては広域化以外にないのではないかと考える。
- ・当分の間、各署所の機能はそのままとし、本部機能の広域化により余剰人員を現場へ回す方法をとるべきでは。当分の間というのは、様々な課題の解決に時間を要すると考えるため。
- ・ブロックについては、高知市が参画するなら1ブロックで、参画しないなら高知市は単独とし、高知市以外を東西に分割する形の3ブロックが良いと思う。これなら10万人以上の管轄人口を確保できる。
- ・市長は市町村合併構想に合わせた6ブロックの考えを持っている。

【中芸広域連合（白石消防長）】

- ・消防長としては、何にも増して現場の維持が最重要と考える。
- （安岡町長）
- ・中芸では独自に広域化を検討してきた経緯もあるが、消防本部の統合は必須だと考える。ただし、現場はそのまま維持することが重要である。
 - ・広域化にあたっては、県下1ブロックが最終の目標になる。やるからには1本化を目指すべきである。
 - ・署（現場）をそのまま維持する方法なら、高知市にも大きなデメリットはないと考える。

【安芸市（横山消防長）】

- ・安芸市は財政状況が非常に苦しく、職員数も5%カットの計画で進んでいる。消防も例外ではなく職員数が減っており、現在38名の体制である。サービスが低下しないよう取り組んでいるが、今の人数では非常に厳しい状況である。
- ・状況の改善は1つの本部だけの取り組みでは無理だと考える。更に将来の人口減少を考えても広域化はやむを得ないものだと考える。
- ・広域化するならば、最もメリットが多い1本化で行くべき。高知市を中心とした体制を作り、各地域には方面隊を置くなど新しい形を工夫したいと考える。

《各委員の質疑・協議》

（根小田座長）

- ・室戸市に確認したいが、高知市が参加しないなら3ブロックということか。
→高知市と、高知市以外を東西に二分した3ブロックである。

(岡崎委員)

- ・近県の状況だが、香川と愛媛は1ブロック化で進んでいるようだ。将来の四国州という形を考えたときは、1本化で進んだ方がきっと県民のためになると考える。高知市には、是非、県内消防のリーダーになってもらいたいと思う。

【香南市（岡崎消防長）】

- ・将来的に広域化は避けて通れない課題であり、メリットも十分理解できるが、5年後に早急に1ブロックではなく、6ブロックからスタートするべきである。
- ・6ブロックでもある程度のメリットはある。まず6ブロックで再編を行って、その後に慎重に考えても良いのでは。
- ・鳥取県は今3ブロックである。そこに聞いたが、やはり3ブロックぐらいが適当との声があるそうだ。
- ・1ブロックでは職員の処遇や団との問題など、重要な課題の調整が難しくなる。広域発足時でなくても、時間をかけて解決する方法もあるといった意見も聞かれるが、広域化当初に解決できないものは何年たっても解決できないと考える。指令の1ブロックについても、既存の各消防本部の指令システムを結合させることは技術的に不可能だと聞いている。

【香美市（竹村消防長）】

- ・香美市の現況は、職員数57名、平均年齢31歳であり、人件費等から考えても、今のところ広域化を急いでという感はない。
- ・当市は合併を行ったばかりであり、その検証を今行っているところであり、消防の広域化をすぐにとということには躊躇がある。
- ・広域化は検討していかなければならない課題である。香南市と同じ意見だが、大きい枠組はメリットも大きい、調整は難しいと考える。この検討委員会の結論を待って検討したい。

【南国市（西岡消防長）】

- ・広域化は将来を考えると必要なことだと考えている。厳しい財政状況や人口の減減により、このままでは現在の消防力の維持は難しいだろう。広域化を積極的に進めるべきと考える。
- ・その際の重要なことは、住民へのサービスの向上を第一の目的とすること。このためには住民の理解が必要である。
- ・どのようなブロックがよいかは、消防長の口から述べることはできない。市長が委員なので分かっていると考えている。
- ・広域化した場合、地域との密着性を損なわないような工夫が必要。また、異動も積極的に行って、組織の活性化を図るべきだと考える。

《各委員の質疑・協議》

(中村委員)

- ・香南市と香美市に確認したいが、「急ぐことはないが、広域化は避けて通れないだろう。県の計画が出れば、それに応じて検討する。」というスタンスと理解したが、それでよいか。
→そのとおり。

(根小田座長)

- ・香美市に聞きたいが、「調整が難しい」という話だったが、「調整」とはどういうことか。
→色々あるが、職員の処遇などの調整ということ。
- ・難しい面はあるだろうが、それが広域化そのものを否定する決定的な要因だろうか。
→そういう意味ではない。課題であるという意味。
- ・事務局に聞きたいが、香南市から「指令の1ブロック化は難しい」という話があったが、どうなのか。
→経費が多くなるのは確かである。技術的には詳細を確認しているわけではないが、無理という話は聞いていない。

【高知市（局長代理：松崎警防課長）】

- ・市長との事前調整はできていない。
- ・高知市としては、消防庁が掲げる広域化のメリットは本県にとって実効性はないと考える。すでに管轄人口30万を超えている高知市にとっては、慎重に対応すべきと考える。
- ・高知市においてもマンパワーは不十分であり、広域化によってサービスが低下することが心配である。
- ・他の14本部にとっては広域化もやむを得ないとも思う。いかにメリットを生み出すかを考えながら県民のために進めていくべき課題である。指令の一元化も実施するなら8億もの経費がかかる。こうした経費の負担なども視野に入れるべきと考える。
- ・以上のことから、性急に広域化を進めるのではなく、10万以上の規模を視野に入れて考えるべきである。

【嶺北広域行政事務組合（瀨口消防長）】

- ・嶺北地域で消防事務が完結できればそれに越したことはないが、人口が減少している中、財政も縮小している。今後も更に減少するのではと危惧している。
- ・こうした中、常備消防は救急に特化してはといった意見や、消防業務の委託といった意見もある。
- ・広域化は、本県ではメリットが大きくないが、それでも進めていかなければならない状況だと感じている。
- ・6、3、1ブロックどれにしても課題はある。それならば最も大きなメリットがある1ブロックで進むべきと思う。
- ・県及び県内消防の中核である高知市の英断を期待する。

【土佐市（中内消防長）】

- ・まず、市長の意見だが、サービスの低下がないならば、（広域化は）積極的に進めるべきとの意見である。
- ・高知県の将来予測から行けば、今回、広域化を進めなければ消防体制は維持できないと考える。
- ・広域化を行うならば、6ブロックだろうが3ブロックだろうが1ブロックだろうが、労力は変わらない。スケールメリットが最も大きい1ブロックで進むべきである。
- ・課題も多く、すべて解決できないだろうが、今から始めるべきで、工夫次第で良いものができると思う。
- ・サービス平準化の話も出たが、地域の住民は高知市と同じサービス（火災時の出動台数など）は望んでいないだろうし、違いがあっても良いと思う。
- ・地域も応分の負担はしていくべきであり、そのうえで指令の一元化も行うべきと考える。よい体制を作れば、異動による地理不案内などの問題も解決できる。

・今、広域化を行い、財政支援などを最大限生かすべきと考える。また、県が行っている航空隊や消防学校をも取り込んだ1ブロックを目指すべき。

《各委員の質疑・協議》

(中村委員)

・嶺北に聞きたい。救急業務への特化や業務委託の話が出たが、団はこういう状況をどう捉えているか。

→公式の場議論されているわけではないので、団の意見などもない。ただ、意識としては、「火事は消防団」という意識があるはず。

【仁淀消防組合（御庄消防長）】

・来年1月から春野町が高知市と合併するため、1町1村の体制になる。職員も74名から57名に、救急車も3台から2台に減る。組織の縮小がサービスの縮小に直結することを身を持って知った。今後の救急対応を最も心配している。

・（本県では）広域化で国の示すほどのメリットはないにしても、一定のメリットはあると考える。広域化は積極的に進めるべきである。

・本県の規模を考えるとなるべく大きな範囲で広域化すべき。6ブロックにしてその後1ブロックになどという動きにはならないと思う。チャンスは一度と考えるべきで、1ブロック化が望ましいと考える。6ブロックでも3ブロックでも1ブロックでもやらねばならないことは一緒である。

・地域との密着性や団との連携などの課題は、署長の権限拡大など工夫は色々できる。

・将来のことではなく、大きな交通事故や災害など、今起こり得ることへの対応を考えても、広域化の意義はある。

【高吾北消防組合（西森消防長）】

・高吾北の現状は、職員49名で整備指針に対する充足率は56%と人員不足である。今年の出動状況は、火災20件、救助30件、救急1,369件（うち53%が管外搬送）という状況で、救急は過去最高の出動件数となっている。

・現状での問題点は、非番招集、兼務が多いことで、職員の疲労を心配している。

・また、庁舎は耐震化されておらず、改修には最低1億円必要であり、この状況なら建替えた方がよいということになっているが、広域化の前か後かを検討する時期に来ている。

・広域化について、様々なメリットやデメリットはあるが、まず、するかしないかの方向性を明確にして、問題点の議論に移らなければならない時期に考える。

・高知市は市民の立場で考え、メリットはないと感じているようであり、他の消防本部のことをいう立場にはないことも承知しているが、高知市が枠組に入らないなら、広域化する必要はないと考えているため、あえて発言させていただく。

・南海地震などの危機的な報道がなされているが、このような事態を考えると、高知市は近隣の消防本部に応援を依頼することが十分考えられるのではないかと思う。

・また、高知市民も多くの方が地方出身であり、中山間に親や兄弟を残している人が多くいることも考えて欲しい。親や兄弟の安全を願わない人はいないと思う。こうしたことも考えて、高知市にはよろしくお願したい。

・広域化後の指令の問題については、南海地震の時の津波の影響を考えて、例えば春野運動公園に設置することも考えられる。そうすれば、大規模災害時に指令の目の前からヘリが飛び立つことになり、非常に運用しやすいと考える。こういう発想も広域化なら出来るし、あっても良いのではないか。

・結論として、この委員会では是非1本化を検討して欲しい。

【高幡消防組合（高橋消防長）】

- ・高幡消防組合の状況は、県内で最大の管轄区域を持ち、2署3分署1出張所、職員123名体制という状況であるが、職員数は今がぎりぎりの状態であり、署所間は距離があるため、火災時の応援はできない。すべて署所内の非番招集で対応している。
- ・広域化については、国のいうメリットはないかもしれないが、1ブロック化で行くべきである。何といても人口減は切実な問題であり、単独では現状の維持も難しいと考える。
- ・広域化すれば、人事交流による組織の活性化なども期待できる。課題はあるかもしれないが、取り組むべきと考える。

【幡多中央消防組合（夕部消防長）】

- ・広域化は、国のいうメリットは本県には当てはまらない面も多く、経費も増える面もあると思う。
- ・住民に密着したきめ細かなサービスという点から、単一消防が最も良いという考えを持っている。このため、市町村合併に足並みをそろえた6ブロックがよいと思う。
- ・1ブロックのメリットも分かるが、性急に進めるべきではない。
- ・もう一つ、県は力を入れてこの問題に取り組んでくれているが、来年以降、同じように力を入れてくれるか心配である。

【幡多西部消防組合（谷本消防長）】

- ・広域化は、今後の人口減を考えると必要である。
- ・広域化するときの重要な点は、サービスを維持しながらいかに経費の節減が図れるかという点である。こうしたことから、1ブロックが最もメリットが大きいと考える。
- ・各首長の意見も聞いてきたが、三原村と宿毛市はあまりメリットはないのではないかと感じているようだ。まず本部機能からという考えである。

【土佐清水市（濱田消防長）】

- ・市長は、まず市町村合併を推進すべきであり、合併が進めば自然に広域化が進むことになる。が、中途半端な合併になるなら1ブロックがよいという考えである。
- ・最も大事な点は、市民にマイナスにならないようにということである。

《各委員の質疑・協議》

（岡崎委員）

- ・土佐清水市に聞きたい。救急搬送で幡多けんみんまでの時間はどれくらいか。
→2時間30分ぐらい(往復)。全件数の30%位が幡多けんみん病院に行っている。

（根小田座長）

- ・幡多中央にお聞きしたい。今の国の流れは、市町村合併に自民党も民主党も賛成であり、地方のサービスは地方で水準を決めればよい。ただし、その負担も地方で負うべきとの考えに流れている。今後このままでは、現状維持も難しくなり、維持するためには住民の負担も増えることになると考えられるが、それでも単一がよいとお考えか。
→災害時などを考えると、トップの判断をいかに速く現場に伝えるかが重要なことであり、そのためには単一が最も適していると思う。
- ・そういうことではなくて、必要な経費を住民で負担しなさいという事態になったとき、サービス維持には負担増になるし、負担を変えなければサービスが低下する事態となる。それで良いのかという意味。

→それは市町村長の判断になるので、消防長としてはその判断に従う。こうしたことも住民へ知らせていくことも必要であり、。広域化に関してパブリックコメントを取ることも考えて欲しい。

(中内土佐市消防長)

- ・広域化のメリットを一つ言い忘れたが、管轄区域の見直しは非常に有効。土佐市の例でいえば、須崎市の浦ノ内地区へは土佐市の宇佐分署からが速い。今まで出動していないが、心苦しい面もあった。やはり1ブロックで考えれば、住民にとってよい面が出てくる。

(笹岡委員)

- ・この件は私と土佐市の市長の間で話をしたこともある。でも結果はダメだった。このメリットはとても大きいと思う。

(笹岡委員)

- ・指令の問題について聞きたいが、一元化について事務局はどう考えているか。
→結論として、まだそこまで考えていない。今後の課題である。

(夕部委員)

- ・デジタル化と広域化は切り離せない。県は両者の歩調を合わせてやって欲しい。

②「消防広域化推進計画」に盛り込む広域化の組み合わせ

(根小田座長)

- ・組み合わせについて、各消防長の意見を聞いてきたが、基本的な方向は出ているのでは。
- ・高知市や幡多中央などの意見、また段階的だという意見も一部あるが、大勢としては1ブロックという意見が多かったと思う。委員会としても1ブロックの意見が多く、方向としてはこの方向ではないか。

(笹岡委員)

- ・高知市の件は気になるが、それでもやはり1ブロックだろう。6ブロックではメリットが感じられない。
- ・課題はあるが、「大変」ではなく、「克服」を目標にすれば解決可能だと考える。

(安岡委員)

- ・須崎市長と同じ意見だが、この後市町村で協議に入る。5年で1本化が実現できるかどうか心配でもある。場合によっては3ブロックや6ブロックに変更もあり得るということを計画書に盛り込んで。

(浜田委員)

- ・私も1ブロックが良いと思っている。今日は全消防本部からの意見が聞けるということだったが、既に広域化していて、その良いところも悪いところも熟知している組合形式の本部の意見に注目していた。大半が1ブロックが良いという意見でうれしく感じた。

(根小田座長)

- ・この委員会の意見として、「1ブロックで具体的な検討に入ってはどうか。高知市や幡多中央などの意見も考慮し、今後の検討の中で詰めていくべき」という方向でどうだろうか。

(各委員)

賛成多数。

(根小田座長)

- ・それでは、これを本委員会の意見として、今後この方向で計画書を事務局で詰めてください。

③「消防広域化推進計画」の素案の提示

- ・概要を岡林消防政策課長より説明。
- ・今回はあくまで素案であるので、持ち帰っていただき、次回の委員会でご意見をいただくこととする。

(根小田座長)

- ・一つ今の素案で感じたことだが、国が一般論で挙げてきたメリットなどは本県には当てはまらない面もあるので、そういう姿勢も盛り込んで、オリジナリティを強めてはと思う。

④その他

- ・南国市長が、今回任期満了にて退任される。後任については、新しい南国市長にお願いすることでよいか。
→異議なし。